

勝利を運ぶ舟  
アルバルク東京



アルバルク東京キャプテン 正中岳城(しょうなかたけき)選手とチアリーダーと一緒に



記者会見の席に臨むこども記者たち

協定を結んだ理由

七月十九日にアルバルク東京と文京区が協定を結びました。結んだ理由は二つあります。

一つ目は、日本バスケットボール協会が、後楽に本部を移動したことや文京区にトヨタアルバルクの本社があることです。

二つ目は、文京区はバスケットボールをやっている人が多いことです。ミニバスケットをやっている人は、東京23区でトップです。(小4/MO記者、小4/A・M記者)

「勝利を運ぶ舟」

「アルバルク」の意味は、「勝利を運ぶ舟」だそうです。アルバルク東京は、1948年にたんじょうし、当時は「トヨタ自動車株式会社 会社実業団」という名でした。

協定を結ぶ、文京区はどのようなことをするのでしょうか？

まず、アルバルク東京のコーチによる教室やバスケットクリニックを行います。また、学校地域と交流を行います。試合観戦イベントなどいろいろ



インタビューにも気さくに答えてくれました

るなイベントを実施します。最後に、区によるチームの応援です。(小4/S記者、小4/A・T記者)

たくさん努力するから、じょうずにいける。バスケットボールのおもしろい所は、たくさん得られる事です。バスケットボールは13人までとつうろくが可のうです。出場する選手は、社長などが話し合い、決めていきます。

選手にしつ問を聞き、すきなあと思つたことは、じょうずにいけるにはたくさん努力をつづけて、じょうずにいけると言つてくれます。また、選手は、オリンピックに出る事をめざす。(小4/J・S記者、小4/R・M記者)



アルバルク東京の林邦彦社長(左)と成澤区長

『造幣さいたま博物館』を取材しました

100円玉のバスルに挑戦!

硬貨の重さを体験

お金の歴史や貨幣・勲章の作り方を学ぶ

日本で発行されている硬貨に施された工夫を知り、改めて日本の技術が世界に誇れるものと実感しました。2020年の東京大会も「世界に誇れる」日本の記念硬貨として発行してほしいです。(中3/K・S記者)

ぞうへい局ではくしんしょうとお金以外に、東京、長野、札幌のオリンピックのメダルを作っています。記念こうかをつくっています。さいたま支局の他に、広島、大分にもぞうへい局があり、お金の型は広島支局でしかつくっていないというは大変だと思いました。(小4/Y・K記者)

東京(1964年) 札幌(1972年) 長野(1998年)のメダルが展示されている

造幣局さいたま支局 見学記念 2017年08月31日